

関西で生まれた喫茶文化

～日本人の心に欠かせないお茶文化～

最近、生活全般における簡便化志向の高まりや食生活の洋風化、様々な競合飲料の台頭などで、リーフ緑茶離れが進んでいます。しかし歴史を顧みると、我々日本人は、平安時代における伝来以来、お茶を淹れることに、のどの渴きを潤すという以上の特別な意味を込めてきました。茶道や煎茶道の文化は日本を代表する「芸術文化」であり、建築、作庭、陶芸など関連文化の深化にも、目を見張るものがあります。

今回の講演では、喫茶史を築いてきた人物や彼らにまつわるエピソードを紹介しながら、お茶の歴史・文化・精神性に接することで、余裕を持った生活が築ける様、学習していきます。是非、ご参加ください。

と き 平成24年2月23日(木)

午後1時30分～3時30分

ところ 大庄公民館ホール(3階)

講師 関西学院大学経済学部

教授 寺本 益英

定員 50人

受講料 無料



申込受付

1月19日(木) 午前9時から、電話もしくは大庄公民館へ。
尼崎市立大庄公民館 電話 6416-0159